

- 1 会議名 議会基本条例推進協議会
- 2 日時 令和元年5月23日(木)  
午後1時20分から午後2時27分まで
- 3 場所 第2・第3委員会室
- 4 出席議員 全議員
- 5 事務局出席者 議会事務局長 隅田昌輝、同統括主査 寺澤顕
- 6 会長あいさつ
- 7 協議事項

(1) 今年度の取組課題について

関戸会長：検証シートの中でどういう課題があるか、いくつか挙げて、今後の流れは、課題を抽出して、優先順位を決めて、6月の議会基本条例推進協議会で順番を決めて徐々に課題を解決していくというような手順で進めていきたいと思っている。検証シートから抽出された課題で、委員会の放映について、議長・副議長の所信表明に対する質疑応答について、本会議における議員間討議を検討する、図書室に関しての話が3つ、サポーターの意見の回答方法で期限等を確定させていく、SNSを利用した広報の検討、子ども向け議会のホームページ作成の検討、議決事項にすべき行政計画等を検討する、議会BCPの策定、これが検証シートから出てきた課題だが、それ以外にも、議会選出監査委員の複数年任期や、決算における議会選出監査委員の質疑について検討することがあるのではないか。これらの課題について、6月の議会中に議会基本条例推進協議会を開催して、その課題について、優先順位を決めて、他に課題があるのか、そういうものを出し合って徐々に課題を解決していく。何か意見はありますか。

宮川議員：検証シートに基づく反省と今後の取組は良いと思うが、新たな課題の抽出をどの時点で挙げて、どのような進め方をしていくのか、各個人から課題とすべきことを何らかの形で挙げてもらって、ここで取捨選択するシステムが必要ではないかと思う。

関戸会長：課題をどのように挙げるかという質問だが、6月の議会中に議会基本条例推進協議会を開くので、その場を出していただいても良いし、それまでの間に私あてに出していただいても良い。申し上げた課題をまとめる時間を設けて、次の機会に課題を提出して優先順位を決める。

宮川議員：それは問題ないと思うが、気になった点を、今日の午前中、広報委員会の中で出た話だが、正副議長の所信表明、それに基づいて岩倉市議会がこれから何を、正副議長は目標として、リーダーシップを取っていくのか、1つの指針になるべき問題だと思うが、その文章を載せるスペースがないということで、せめてホームページには、市民周知のために出せれ

るような形にすべきではないかと思う。いかがでしょうか。

須藤議員：広報は広げることにはできないか。広報で増やすことはできないか。無いので議会のホームページでということ。

梅村議員：立候補制を取ったのは、所信表明を公開したいというのが1つポイントでもあるので、公開していったら良いと思う。ホームページに載せられればホームページで良いと思うし、広報委員で決めてもらえれば良いと思う。

大野議員：広報委員会で決めるのか。

宮川議員：整理のために発言するが、議長の所信表明というのは文書化されている、それに手を加えるものではないと思うので、載せるか載せないかという話になる。議会の広報に載せるかについては、7月1日は変更できないので、今回は載せることは容易ではない、今後何らかの形で載せていくのは、広報委員会でも考えなければいけないと思うが、現状でできるのはホームページに載せるか載せないかを決定し、それをどのような形で載せるかを事務ばたで考えるのが現実的だと思う。

木村議員：広報に載せるのは無理だと思う。5月臨時会の分を載せるのは、スペース的に。やはりホームページで公開するという事で決めていただいて、広報のほうには、議会だよりの方には、ホームページに所信表明については記載してありますと書いておく。

堀議員：今後の話として、予算的な部分で無理なのか、日程的に7月にずれてしまって機を逸するという意味でやめたほうが良いという考えなのか、どちらなのか。

(意見有り)

堀議員：両方だということが良いですね。課題の抽出と絡めると、議長・副議長の所信表明に載っている事項というのは、今回2年スパン、初めてのことなので、2年の期間でもって、2年の中でどういう過程をもって成し遂げられているのかというところと、この議会基本条例推進協議会とリンクしてくるところが多いと思うので、そういったことも含めて課題の抽出をしたらどうか。

関戸会長：正副議長の所信表明の中に入っている課題、それを課題抽出していくという意見でした。他に、意見がございましたら。その前に、ホームページに議長・副議長の所信表明を載せることに、ご異議ございませんか。

(異議なし)

黒川議員：そのことについては、全会一致なら、それをルール化していくということで、会長のほうで、もう一度みなさんの意見を聞くのはどうか。

関戸会長：ご異議がないので、載せていくことになりました。それをルール

化していくことだが、こういうルールが必要ではないかということがあれば。

木村議員：今回も選挙になったということで、2人の候補者がいたわけで、そういうことも含めて、どのように所信表明を載せていくのか、要検討だと思う。それぞれ所信表明したわけだから、それぞれ載せて、結果としてこの方がなったという表示ができればいいと思う。そこまで透明性を持った方が良くはないか。

関戸会長：立候補者が3名いたら、3名の所信表明を載せるという意見ですね。

大野議員：全員協議会の議事録はできているか。所信表明は全員協議会だから議事録はアップするでしょ。それができているか。5月臨時会のやつ。そこに載ってますというのをどこかに表示する。

宮川議員：今の確認だが、全員協議会の議事録に載っているからという話か。

大野議員：全員協議会の議事録がアップできれば、2人とも載っているわけで、それで、そこに記載してありますということでも良いと思う。改めてページを作ると、議会のホームページを触らなければいけない。どこに載せるのということになる。それは広報で決めなければいけないが、ホームページを触らなければいけないということは、今すぐできるかどうか協議しなければいけない。一旦、全員協議会の議事録ができれば、そこで載っていますとして、ホームページに触れるなら、その時載せるという考えをしないと、簡単かどうか確認しなければいけない。私は広報委員会の委員長なので、すぐできないので、また委員会を開いて協議しなければいけない。広報委員長としては、今すぐできる方法としては、そこに載っていますと記載すること。

宮川議員：木村議員が言われた、並列表記に関しては、全員協議会の議事録の中で整理するという意味合いで良いかもしれないが、何らかのトピックスでアップして見える形にしておかないと、文章の中に埋もれてしまっただけは何の意味もなさない。最初に言ったのは、せめて議長の今後2年の指針となるべきものは、誰が見てもすぐに目に届くように、そういった工夫をした上で、進めていかないと、この文章の中の一部にあるから良いということにはならない気がする。どのように整理するかは決めていただければ良い。趣旨を優先するのであれば、埋もれないような工夫は必要だと思う。

大野議員：私は広報委員長なので、簡単には、トピックスで、全員協議会で議長・副議長の選挙で、2人の候補が、全員協議会の議事録をアップしましたと、トピックスで議会のホームページだったらすぐできます。それな

ら可能です。すぐできるようにするなら、最善の策です。ホームページを簡単に触れるということではないので、トピックスにあげることは可能ですので、大至急、議事録を作ってアップすることが、今、最善の策だと思う。事務局にも大きな負担がかからないようにするというのはいかがか。

関戸会長：委員長と事務局で、新しくなったところに、全員協議会の議事録が載ったところに飛ぶようにして、候補者の発言がわかるようにする。今後の検討課題として、すぐに見られるようにする議長の部分は、広報委員会で検討していただく。このようなことでよろしいか。

関戸会長：議長・副議長のことについては、今のことで決定ということで、進めさせていただきます。

## (2) 議会サポーターについて

関戸会長：資料「令和元年度 今後の行政視察等」7月からスタートになっているが、前のサポーターのリーダーの鬼頭さんと話し合っ、5月中に次の年度の500人に対して送らなければいけないということで、5月27日(月)10時から、シール貼りは終わっているので、封筒詰めをするという作業を予定している。参加していただける方はよろしくお願いします。補足説明をお願いします。

議会事務局統括主査 寺澤：議会サポーターについて概略を説明する。改選前に、最後にチーム会議、鬼頭チーム長を中心に、大野議員・堀議員・須藤議員・榎谷議員で、最後の話し合いのところで、選挙になるということで、事務局で進められるところは進めていくということで作業している。現時点で、6月1日から、無作為抽出をした市民500人に文書を発送して依頼をかける。同時に6月号の広報で公募による依頼をかける。現段階の作業は、500人分の封筒を宛名まで用意して、文書4種類を500部を折りたたんだ状態で用意してある、返信用封筒を折りたたんだ状態で、27日に文書を封筒に入れる作業を経て、5月31日に郵便局に持って行き、6月1日に発送したいと思う。中身は、6月いっぱいを目途に応募依頼をしている。無作為抽出もそうだが、公募も6月中の依頼である。昨年7月に3回事前説明会を開いているが、チーム会議の中で、2回でどうか、土日に1回、平日の夜間に1回ということで、チームの方には相談したが、7月25日(木)午後7時からと、7月27日(土)午前10時から、ということで、これは応募の際に、2日間のうちどちらかの説明会に出席してくださいという内容で広報紙を作ってあるし、応募の依頼の文書にも入れてある。

堀議員：現在の22人のサポーターの再任用の意向調査はどうなっているか。  
議会事務局統括主査 寺澤：チーム会議の中で、1月に2回、意見交換会を行ったが、サポーターの任期が7月31日までなので、7月にもう一度意見交換会を開いてはどうか、この日程は未定であるが、そこで現サポーターに、その後の意向を伺ってはどうかという話が出ている。意見交換会でお聞きしようかと考えている。

宮川議員：27日に封入作業があるということだが、この時間帯に下本町の保健推進委員が議場見学をするので、対応で正副議長と事務局から1名取られるので、それを考慮した工程を考えていただきたい。提案である。

関戸会長：時間を繰り下げたほうがいいか。

宮川議員：9時半集合で。

関戸会長：承知しました。

堀議員：再任の意向調査はわかったが、公募も含めて、全体のスケジュールを共有化しておく必要があると思う。定員は100名になっているが、予算では何人になっていて、再任の意向と公募の具合をどのようにしていくか、具体的な中身を教えてほしい。

関戸会長：それについては、新しいサポーターの委員に決めてもらうか、前のやつでいいか、

梅村議員：前のサポーターチームの方が4月までやられて、その段階でいろいろ決めていくことがあるので、それをまとめて、現状どこまで決まっているか共有しなければいけないので、早急にまとめた資料を作ってレターケースに入れるということで、広報の記事でいくと、公募は10名ほどとなっていた、1回目と同じようなやり方を繰り返すということになっている。

大野議員：広報に載せる記事案、あれば後でみなさんに配ってください。それで公募のほうはわかると思う。

関戸会長：こちらのほうでまとめてレターボックスに入れるのと、広報に載せる文書についても配っていただきたい。「今後の行政視察等」で7月11日と13日に第1期議会サポーターとの意見交換会を仮に入れているが、会長と鬼頭グループ長で仮に決めたが、その日は調子が悪いとかあれば意見をいただきたい。

鬼頭議員：4月までのスパンということで、決めて、それ以降に関しては新しい委員の方で決めていこうという話だった。7月に関しては、4回サポーターの説明会と意見交換会ということで、日程がタイトではあるが、2班体制で前回と同じ形で、参加できる方に出ていただくという形が良い。ただ、新人の方はわからないので、経験のある議員が半分ずつ分かれると

良いと思うが、どうか。

関戸会長：チーム長から説明があったが、何か意見はあるか。

堀議員：6月に2回目の推進協議会が開催されて、課題を抽出した後に、またチームとかを作るのか。チームを作った中で、2つの日程に分けるのか、チームは関係なく2期目以降の議員で割り振るのか、その考え方はどうか。

木村議員：新人の人も経験してもらわなければいけないので、全員で、意見交換会や説明会に対応するというので、2班に分けてやっていく方が良いと思う。

関戸会長：全員で半分ずつに分かれて1回ずつ対応するという形で進める。日程については、この日程で決めさせていただく。

関戸会長：議会サポーターのグループだが、6月中旬の議会中に行える議会基本条例推進協議会で作っていかうと思っている。グループ分けをしたいと考えている。課題においてチーム分けをするということです。

関戸会長：サポーターから出ている質問に対する回答の仕方だが、議会運営委員会で回答を作成することになっているので、5月の議会運営委員会で回答を作り、それをサポーターに伝える。

### (3) ふれあいトークについて

関戸会長：議会報告会と意見交換会、分けてやっていかうと思う。議会報告会は、去年は5月・10月・2月の3回行った。今年は選挙があったので、5月は6月の定例会以降にやろうということになっていると思うが、7月・8月はこのような状況で、基本条例では年2回以上となっているので、議会報告会の5月分をどうするかを決めたい。

宮川議員：4年前を振り返ると、タイトな日程の中で、無理に短い間に企画してというのは無理だと思うので、今回は見送る、もしくは時期を変更してやる、どちらかになるが、今月・来月にやるという必然性もないと思う。

黒川議員：改選期の後、前回はやらなかったと思う。議会報告会というのは3月の予算と9月の決算、それを受けた形で今までやってきた。この間、試行的に、例えば、3月定例会の直前のところの報告会、つまり私たちが、予算等、議案を含めて3月定例会で重要なものを審議するに当たって、事前に市民の方の意見を聞きましようということで、この間、やってきている。私はそれはそれとして有効だと思うので、議会報告会の持ち方を、見直しした方が良いのではないかとということで、そういう意味合いで言うと、3月定例会の前に議会報告会を開く、そして予算等含めて市民のみなさんの意見を聞く機会を設ける。もう一つは決算の後、これは重要で、決算議

会の中で何を問題にしたのか、そういうところを市民に明らかにしながら意見をいただき、次の予算につなげていく、そういうことが重要だと思うので、試行的に、今までやってきたのと同じように、9月の決算を受けた形で11月頃に議会報告会を設ける、3月定例会前の2月に報告会を設ける、元年度はそんなスタイルでやってみて、そのほうが良いということでもとまれば、要領等を改正していくことが必要だと思うので、含みをもたせた形で、やってみてはいかがかと思う。

関戸会長：黒川議員から2回で、という意見があった。他に意見はあるか。

関戸会長：他に意見がないので、昨年5月に行われたものはやらず、10月か11月、もしくは2月の2回、ということで決定ということよろしいか。議会報告会はそのようにする。

関戸会長：意見交換会はどうか。昨年は各行政区や農業委員、いろいろあって、12～13回やっている。これをどのように年間通じてやっていくか、今決めるわけではないが、だいたいどれくらいがいいか。団体のほうから、せいじーると市民団体からは、今年もできればという話は来ている。年2回はできそう。6月の推進協議会で案を出してほしい。

関戸会長：6月の協議会で、こんなふうに進めていくということよろしいか。

木村議員：報告しておくが、昨年2月の議会報告会の報告書を、選挙があって作らずに、私が担当だったが、選挙が終わって作って提出してあるので、目を通していただいて、意見をもらって、表示していかなければいけないので、お願いします。

関戸会長：レターボックスに入れていただいて、読んで、次の会の時に、そういう流れで、よろしくお願いします。その他よろしいか。追加の検討事項があり、実施計画についての検討です。具其他的にはタブレットの予算化だが、6月10日までに何らかの形で意思表示をしなければいけない。実際に、実施計画に挙げる挙げないは、議運で決めていただくが、その前の検討ということで、意見を聞く場を作りたい。今どういう状態かというのを事務局から説明してください。

議会事務局統括主査：今回の実施計画は、来年度以降の予算の確保のためのもので、今年度の予算ではない。昨年度、執行機関と協議しているので、昨年度は実施計画としてタブレット導入事業を提出したが、優先順位的に予算の配当はなかった。それから1年経過して、昨年提出しているので、それを今年度どうするのか、昨年同様に挙げるのか、昨年は無配だったので、議会で時期尚早ということになれば、見送るという形になると思う。昨年、いろんな協議会の中で、各議員からいろんな意見が出ていたの

で、事務局としては、議会としてまとまったものを執行機関に示していきたい。

事務局長：実施計画の話なので、来年度以降、令和2年から3年4年の3年間の分になる。毎年やっていくので、令和2年に限らず、3年4年で計画的に整備していくようなものもあれば、提示することも可能である。

堀議員：議長・副議長の所信表明と議会改革とリンクして、所信表明で述べられている、この件については、そこと、推進協議会という会長もそうだが、議会改革をリードする立場だと思う、そこらへんの気持ちや意向を議会全体で共有する作業がまず必要だと思う。

梅村議長：議会のICT化は、いろいろ検討して進めていかなければいけないと考えている。ICT化もいろいろあるが、私自身は、公費負担でタブレットを導入してやっていくというよりも、紙のものを少しでもデータにできないか、そういったことも考えながらICT化という意味で申し上げた。すぐにタブレットを公費で導入すべきかどうかという点は考えていない。

関戸会長：ICT化については、専門だったので、意見がある。議長と同じ考えで、公費を使ってハードを購入するというよりも、やれることがあるのではないかと。ICT化といっても、いろいろなことがあった。なんとか仕組みを作って、まずは情報を発信していくところに注力したいと思っている。行政側がタブレットを導入していったら、議会側も、という形で、ペーパーレス化が進めば良いが、今のところ、そういう状況ではなさそうな感じも受けるので、同期しながらやらないと、こういう事業は効果が半減してしまうので、そういう観点から進めていきたいと考えている。

宮川議員：議長の言葉、タイミングの話もあるので、それは尊重したいと思うが、例えば具体的な取組として、スキャナーを議会として導入して、例えば、公式には市内に2冊しかないと言われているユニバーサルデザイン推進計画、それをPDF化、スキャナーを買ってPDF化してデータベース化していく、そういうことを考えていると捉えて良いか。

梅村議長：具体的なやり方までは考えていないが、前に話し合った中で、紙の資料が増えていくことで、管理しづらくなるという意見もあったので、そんなところから解決できないかという意味で、資料がデータ化できると良いのではないかと。

黒川議員：30年度議長を行った者として意見を述べるが、昨年、実施計画に挙げたというのは、実施計画の提示をしないと次年度の予算に反映できないというのが市内の約束事項である。議会も守らなければいけない。実施計画の提示をして、次年度の予算に持っていき、次年度あるいは3年後

に向けて、そういう関係もある。私が昨年、事務局のほうに実施計画の策定、議会運営委員会でお願ひしたのは、タブレットの導入というのが必要である、その前に、2年ほど行政視察、小牧とか江南とか、内部で調査研究も行った、チームでICT計画案を作成し議論してきた。そういったものを踏まえて、昨年、私は議長として、実施計画に挙げていただきたいということを議会運営委員会にお願ひし、その了解も得た。2つあって、どちらを選択するかということもあるが、実施計画提出後に、ある事業者から改善に向けた提案もあった。それによると金額的にも実施計画に載せたものより100万円くらい安くなる、そういった提案もあったが、昨年の第9次実施計画には間に合わなかったの、そのむねは執行機関に口頭で伝えた。私としては、そういった経緯も踏まえて、議会としてのタブレット導入、そういったものも、再度、実施計画に載せるべきではないかと思っているが、ただ、議長・副議長の話聞いてみると、トーンダウンしたなという感じが否めない。もし、それに変わるものがあるなら、具体的に、こういった形で方策を講ずるとか、そういったものを出していただかないと、何か良いものがあるだろう、そういうことでは議論は進まないの、そのへんは今後議論する必要があると思うので、第10次実施計画の締め切りが迫っている、議会としてはどうするのか、そういったところも全体のところで議論する必要があるのではないかと思う。

須藤議員：昨年のタブレットの件については、全員が賛成ではなかった。議運で決められたことである。議運で決められて、全員に諮っていないと思う。実施計画、予算に合わすかどうかというのは、全員に諮っていない。

黒川議員：その点は、昨年も何度も申し上げたが、議会基本条例推進協議会の中で方向性が全体で確認された。それを受けた形で、昨年度は、議長として実施計画に計上したいということ、手続き的には議会運営委員会が行う。その前提として、議会基本条例推進協議会の中で方向性が確認されている。

須藤議員：されていません。議運で勝手に決めて、全員が賛成ではなかった。それだけは言うておきます。

宮川議員：予算編成権は我々にはない。それが前提です。その中で、昨年の議会基本条例推進協議会の中で、期日が迫っているから、できないは別としても、議論の俎上に挙げないといけないから、それは提案しますというのは、全員の前で確認しました。俎上に挙げるということに関しては確認しました。それが、俎上に挙げたから、議会が挙げたから、絶対に予算化されるというのはご時世ではないので、結果的には没になりました。これは結論です。でも、副会長が言われた話の中で、去年のこの席で、

俎上に挙げることは全員の合意を持って挙げました。それを議運に送った。そういう流れです。副会長のさきほどの意見で言うと、ここで決めたことは予算化される前提みたいには聞こえてしまうが、議論をするためのテーブルに書類を挙げていきましようということは確認しました。

須藤議員：(音声確認できず)

宮川議員：それも、前提が、予算編成権が我々にはないので、俎上に挙げなければ、1回切れてしまうと、ゼロベースでまた始めなければいけないので、継続的に粘り強く交渉していくのが、前議長の言われた、議会ではなくて岩倉市の行政としてのルールに基づけば、毎年でも出していかないとゼロベースになってしまうという、慣例に基づいた手続きをとらなければいけないと言われていると、私は理解した。

須藤議員：(音声確認できず)

宮川議員：去年のこの場でもみなさんも、同じように考えていたと思う。時期尚早だと。具体的な提案ができない段階で、どこまで執行部との交渉ができるのか、というのは疑問もあった。でも、まずは一步前に進みましょうということ、温度差があるのは当然だと思った中で、とりまとめは私がした。今年も結果的には一緒、やらなければいけない作業は一緒だと思う。とりあえずテーブルに載せる。載せて議論をする。議論をして執行部が良しとすれば予算がつくし、具体性が乏しいならバツにするだけの話だと思う。

須藤議員：それだったら白紙に戻して、チームでもう1回練り上げたほうがいいと思う。予算がかかることですから、これは。

宮川議員：ゼロベースにするということは、今の正副会長のもとで、企画書から作り上げて、去年作ったものではなくて、それを破棄して作り上げていただく、それはお任せしても良いということか。

須藤議員：そんなことは言っていない。

宮川議員：どういうことを言っているか。

須藤議員：一からもっと議論し直さなければいけない

宮川議員：この場で。

須藤議員：チームで。

宮川議員：チームで練り上げていただくのは、課題として、来年度予算の要求に関してどうするかがスタート地点なので、ゆっくり考えていただくのが良いと思うが、ということは、この6月には出さないということは、令和3年度予算に反映させる前提で、1年半かけてやるということか。

須藤議員：そうだね。

宮川議員：それを是とするのか、どうかという話ですね。事業の継続性だとか、我々も考えていかなければいけない。そこでゼロベースより、具体的な取組や、今後どうするのかは考えなければ説得できないと思うが、果たしてそれがゼロベース、今までの、あの冊子を作るまでの努力を無視する、変更は当然あると思うが、ゼロというのは、あまりにもと思う。

堀議員：そうですね、積み重ね、ここは改革を推進する協議会なので、積み重ねてきたものを無駄にしてはならないと私は思うし、前会長が言ったとおり、推進協議会というのは、決定機関ではない、おおかたの方向性をみんなで確認したところ、私はそう思っている。実際、議会運営委員会という決定機関で、会派の代表が決定したという、そういう手続きを経てきたはずである。みなさん誤解のないように、ここで全員合意で決定したわけではないので、そこらへんを取り違えないようにしていただきたい。

須藤議員：ゼロベースというのは言い過ぎたかもしれないが、今までやってきたものを基に、検討してもらえばいいと思う。これを導入するに当たっては、報告会か何かで市民に知らせなければいけないと思う。予算がどのくらいかかるのか、なぜこれを導入するのか、それが第一だと思っている。それを報告してから予算請求するという道筋が良いと思う。

伊藤議員：私どもの意見としては前から言っているが、当局で予算を挙げるのも良いが、議員で、自分たちで買うというのも、意見があったというのは事実で、その意見は、自費で買うという方向性も、私は推進していきたい。

大野議員：大変申し訳ないが、それは当局に確認して、公費で買ったものしか公的なデータを、ソフトを入れられないということは、すでに確認済みである。それを一から議論するというのは、鈴木前議員がチーム長だったが、それには報告されて、創政会から出ていた関戸議員もすでに納得されている、という議論を蒸し返すというのは、チーム報告を議会基本条例推進協議会で報告されているので、蒸し返すのはおかしいと思う。

木村議員：タブレットの導入について、慎重に検討したいという思いがある。どうやって進めるかということだが、課題はいくつかあって、大きな課題としては、執行機関側との連携が必要だということ。これが難しいところ、執行機関側も電子決裁をやり始めて、少しずつペーパーレスの方向を目指してやっているのは間違いなく、そのへんでの一致点をどうやって作っていくのかが一つの大きな課題だと思う。細かいところは、使い方の問題だとか、公私の問題だとか、通信費をどうするかということは、すぐに決まる問題だと思っているので、きちんと話し合っていく場を持ちながら予算を要求していかないと、チームで検討し直して、さらに最新情報も含めて、

これくらいの金額になっているとか、こういう性能が出ているとかを相手に示しながらやっていかないと説得力がないと思うので、そういうことをするチームを立ち上げて、今までの前提に立った形で新たな交渉をする要件、それを考えていく、そういう作業を少しの間やって、またこういう場で議論して到達点に立って、予算要求するのかどうかを決めていけば良いと思う。

水野議員：意見というより要望だが、大規模災害とか、コンピューターウィルスとか、予想外のテロとか、予想外のことが起こってシステムがダウンした場合にどうするのか、超法規的なことになってしまうのか、そういうセキュリティとか、他のことについても検討していただければと思う。

関戸会長：他にございませんか。ここは決定機関ではないので、今話し合ったことを議運で話し合っ、最終決断されるという形で進んでいく。

木村議員：もう1回整理すると、次の協議会の場で、チーム編成をする、そういうのを決めておかなければいけない。ICTのことを検討するチームと、機能強化が必要なのか、行政評価だとか、サポーターだとか、いろいろある。そのへんをチーム分けてやっていくべきだと思う。次の会議で決めるようお願いします。

関戸会長：6月の会議でさせていただきます。ありがとうございます。実施計画の検討については以上でよろしいか。

## 8 報告事項

### (1) その他

関戸会長：行政視察がすでに入っている。資料「令和元年度 今後の行政視察等」のとおり、7月は3回。今後どのように視察を受け入れていくかということも、6月の会議で、意見があれば、前に、大野議員から曜日を決めてはどうかとか、いろんな意見が出ているが、聞きながら進めていこうと思っている。

黒川議員：新しい方が4名みえるので、7月は3回ということで、これは全員でやってみて、その後、早稲田大学がランキングを発表すると、岩倉市に注目が集まれば、入ってくるかもしれないが、7月は3回やって、新しい方には慣れていただく、その後、午前と午後でだぶったり、そうすればチームに分けてやるとか、対応を考えれば良いので、7月は全体で応ずるということでいかがか。

## 9 その他

特になし。